

世界的金融危機の影響に対するエジプト中央銀行の敏速な対策

エジプト中央銀行(CBE)のファルーク・エル・オクダ総裁は、12月21日の記者会見で、世界的な金融危機によるエジプト経済への影響と今後の対応策に関連して、中小企業向けの具体的な支援策を発表。加えて、直近の国際収支の状況等についてもコメントした。

(1) 中小企業(SME)に対する短期刺激策

中央銀行総裁は、国際的な金融危機の影響で2008年11月末の外貨準備高が4年ぶりに減少した(前月比1.7%減の344億ドル)。更に、海外直接投資(FDI)は、07年/08年度第一四半期の30億ドルから08年/09年度第一四半期には17億ドルと44.3%減少した。これについて総裁は、エジプトに流入した「ホットマネー」は既に流出しており、この水準から外貨準備高がさらに減少する事は無いとコメントした。これらの資金の90%は財務省短期証券に投資されていた。約80億ドルの資金がエジプト市場から流出した。それにもかかわらず、市場は相対的に堅調であり、エジプト・ポンドは他国通貨に対して堅調を維持していると付け加えた。

さらに総裁は、中央銀行の委員会は中小企業が今後も健全に成長出来るよう、様々な対応策(銀行の貸し渋り対策等)を既に承認したと発表した。この中には、商業銀行の中小企業に対する貸出金利を年率1.5%引下げる。加えて、これらの中小企業向けローンに関しては、2009年1月1日から商業銀行の預金準備率(14%)から免除される事も盛り込まれている。これに伴い中央銀行は対象の中小企業の条件を次のように設定した：①対象企業の年間売上高が100万エジプト・ポンド以上、2,000万エジプト・ポンド以下であること。②払込み資本金が25万エジプト・ポンドを下回らないこと、また、500万エジプト・ポンドを超えない事が条件となる。

(2) 2008年11月末現在の国際収支等の状況

最後に、総裁は08年/09年度第1四半期の国際収支は5億ドルの黒字となったと発表した。(前年同期は12億ドルの黒字)。また、08年/09年度第1四半期の経常収支は10億ドルの赤字となったと付け加えた。